

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、橋梁、高架道路、盛土構造道路などを除く道路部（以下、道路平面部という）においても、液状化により一時的に道路の通行に支障が生じた区間が発生し、緊急輸送道路等で避難・救援活動の支障となった。

橋梁や盛土等の構造物については液状化による影響を考慮してきたが、道路平面部の液状化被害については、これまでも被害は確認されていたが、研究事例が少なく、その交通機能への影響や対策方法等については明確になっていない。

このため国土技術政策総合研究所と独立行政法人土木研究所（現 国立研究開発法人土木研究所）では、道路平面部の液状化に伴う被害について、道路の諸条件（舗装構成，地盤条件等）を踏まえた対策手法の確立のための検討を行ってきた。

本書は、東日本大震災における道路平面部の液状化被災状況に関する情報を収集し、被災状況等と道路構造，道路下の埋設物，地盤条件等との関係を分析することで、道路平面部の液状化による被害の発生条件を整理し、道路平面部における液状化被害を抑制するために参考となる技術資料としてとりまとめたものである。